

平成30年度第3回古賀市子ども・子育て会議 議事録

開催日時	平成30年8月30日(木) 14:00~16:00		
開催場所	サンコスモ古賀 203 研修室	公開の可否	可
事務局	保健福祉部子育て支援課	傍聴者数	なし
公開しなかった理由			
出席者	委員	森保之委員、桑野嘉津子委員、青木扶美子委員、天久真吾委員、伊豆剛直委員、角森輝美委員、末次威生委員、神崎美春委員、藤田勉委員、金子美聡委員、	
	事務局	村山子育て支援課長、渋谷子育て支援係長、佐藤子育て支援係員	
	その他	なし	
議題	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回会議の議事録について ・ニーズ調査のアンケート案について ・グループヒアリングについて 		
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ○資料1 「子育て会議 (H30第2回) 議事録」 ○資料2 「アンケート案」(4種類) ○資料3-1 「ニーズ調査の対象者と調査方法」 <li style="padding-left: 20px;">3-2 「ニーズ調査に係るグループヒアリングについて」 		

○次第

1. 開会あいさつ
 2. 会長あいさつ
 3. 第2回会議の議事録について（資料1）
 4. ニーズ調査のアンケート案について（資料2）
 5. グループヒアリングについて（資料3-1, 3-2）
 6. その他
-

平成30年度第3回古賀市子ども・子育て会議（概要）

1. 開会あいさつ

2. 会長あいさつ

3. 第2回会議の議事録について（資料1）

特段修正意見がなく、承認される。

4. ニーズ調査のアンケート案について

（資料2）

事務局より、資料2に従い、前回会議での意見をもとにアンケート内容を修正した箇所について説明を行う。修正箇所は以下のとおり。

<就学前児童の保護者>

問10(p.7)、18(p.11)の「児童館・児童センター」は施設ごとに分けず、ひとくくりで問うことで統一。

問7-1(p.4) 母親の就労希望について、前回会議にて「自身は就労を希望していないが家族・知人からの要求で就労せざるを得ない」という項目を入れてはどうかと提案があったが、見込み量の算出に関わる設問のため、業者と相談して決めることとする。

問13(p.8)に、病児保育を実施している場所を追加。

問27(p.17)の選択肢に、「こもこも、子育てBOOK、赤ちゃん訪問、保育所・幼稚園」を追加。

問28(p.17)の選択肢を、英語表記に統一。

<小学生の保護者>

問6(p.3)に、病児保育を実施している場所を追加。

問13(p.6)の選択肢を、英語表記に統一。

<小学生>

前回問1にあった性別を問う設問については、削除。問うとしても最後に追加する。

問6(p.2)は、ご意見いただいたとおりに選択肢を変更。

問7(p.3)に、「あなたの居場所として」を追加。

問 8 (p.3)は「オンラインゲーム」という文言をやめ、「ネットゲーム（インターネットを使ったゲーム）」と変更。

問 1 1 (p.4)は、「参加した・しなかった」だと選択肢と合わないものもあるとして、「ある」「ない」に変更。

<中学生>

問 6 (p.2)は、ご意見いただいたとおりに選択肢を変更。

問 7 (p.3)に、「あなたの居場所として」を追加。

問 8 (p.3)は、「オンラインゲーム」が未修正のため、小学生アンケートの問 8 と同様に訂正を依頼。

なお、事務局より、「○は3つまで」の項目については、設問に応じて「すべてに○」とどちらが相応しいかを業者と相談しながら設定する旨説明。また、最終的なアンケートの設問の確定についても、量の見込みにも関わってくるため、業者と十分に協議の上決定していく旨再度説明を行う。

委員からの意見は次のとおり。

(委員) 業者との協議で変更となる設問は具体的にどれか。

(事務局) 保育の無償化に関する設問を追加する可能性もあり、場合によっては需要度の低い設問を削除することもある。

(委員) 小中学生のアンケート問 1 1 ①「地域のお祭りや行事に協力したこと」の設問について、この場合単に祭りに“参加”しただけではなく、積極的に“協力”したかどうかを問うものか。

(事務局) 前回のアンケートと比較できる項目として残しているが、地域の一員として社会参画したかどうかを問うものと事務局も理解している。

その他修正意見がなく、量の見込みに関わる設問については追加修正が入ることも了承した上で、本アンケート（案）が承認される。

5. グループヒアリングについて（資料3）

事務局より、資料3-1に従い、ニーズ調査の対象者及び調査方法について説明を行う。特段修正意見がなく、承認される。

続いて、事務局より、資料3-2に従い、地域支援者及び高校生のグループヒアリングの内容について説明を行う。しばらく近くの委員同士で意見交換をする。

委員からの意見は次のとおり。

(委員) アンケートで「古賀市の良いところ」を書いてもらうので、その結果をヒアリング時に紹介してはどうか。

(事務局) 紹介することは問題ないが、アンケートとヒアリングが同時進行で行われるので、結果が出ていないと思われる。

(会長) 委員のヒアリングへの参加について、可能であれば高校生のグループヒアリングに入っただけ、コーディネーターもお手伝いいただきたい。併せて、地域支援者のヒアリングへ参加

して盛り上げていただければ思っているが、皆さんはどうか。

<地域支援者ヒアリングについて>

(委員) 地域支援者ヒアリングの対象者は支援者だけと聞いたが、サロンに来ているお母さんたちも色々と意見を持っているので、来てもらってはどうか。

(事務局) 保護者の調査はアンケートで取ることになっているので、今回については参加者は支援者とし、ヒアリングの中でお母さんからの意見を紹介いただきたい

(委員) それでは参加者を募集するときその説明も添えて募集いただきたい。

(委員) グループヒアリングのイメージがわからないので、教えていただきたい。

(事務局) たとえばグループで話す中で「古賀市の強み」が出てきたときに、自分のグループにこだわらず全体を広げて見て、自分が話したいテーマがあれば移っていただいて構わないというイメージ。自分が大事にしていることをより深く話していただければと思っている。

(委員) それであればコーディネーターと仕組みづくりが重要になるだろう。

(事務局) 仕組みづくりや当日の参加においても、ぜひ委員の方にご協力いただきたい。

(委員) 支援者は意識が高いので、面白い意見が活発に出ると思う。思いが強い方がたくさんいると思われるので、話が終わらないかもしれない。

(事務局) 事務局もそう考えている。意見が出過ぎて最終的にまとまらなくてもよい。キーワードを出してもらうことが目的。計画づくりの材料にしていきたい。紙に記録としても残るので、「えんたくん」の使用は有効ではないかと考えている。

(委員) えんたくんに書いてしまうと、別グループを分ける時に分けにくいかもしれない。付箋を利用したほうが意見が広げやすいのでは。

(会長) ワールドカフェ形式でやるのがいいかもしれない。グループチェンジを数回繰り返せば全員で意見を広げていける。付箋で意見を出すのは良い案だが、仲間分けするのに時間がかかることもある。

(委員) 1回20人程度であれば付箋で書いても意見の数が少ないのでは。カフェ的な形式のほうが意見の広がりも期待できそう。

(会長) ワールドカフェの良さは、意見が言えないときに紙に書いて気持ちを出せること。

(委員) 思いの強い方が多いので、一人一人の発言の時間を2～3分など設定したほうがよいかもしれない。会の初めにルールを明確に設定することが必要。

(委員) 時間が4時間とってあるが、長すぎるのではないかと。協力はしたいが、時間設定には配慮いただきたい。

(事務局) 時間は確定ではない。話したい方もいらっしやると思うので、最大でもそれぐらいと考えている。

<高校生ヒアリングについて>

(事務局) 「10年後の古賀市はどんなまちだと思うか。どんなまちになってほしいか。どうしたら良くなるかイメージしてみよう。」と深掘りしていければと考えている。あくまで案なので、良い意見があればご提案いただきたい。

(委員) 参加者に「高校1～3年生」になっているが、3年生は秋以降は難しいのではないかと。

(事務局) 学年は限定しないので、参加できる人で調整したい。

(委員) 高校生は「古賀市の10年後」をイメージできないのではないかと。

(委員) 10年後に古賀市に住みたいと思うためにはどうしたらいいか、と問う方がよいのではないか。高校生は外に出ていきたい気持ち強い子も多い。古賀市に家がある人は故郷になるので語れるかもしれないが、古賀市外在住の子に10年後の古賀市を語らせるのは意味がないのでは。

(委員) 10年後の古賀市を高校生に聞くことと子育て支援にどう関係するのかがわからない。

(会長) 今の古賀市に対してどう思うか、と問う方が意味があるのでは。

(委員) 本ヒアリングの目的はそもそも何か。高校生への支援を探っていくのか、または親世代になっていく高校生に今後の子育て支援を聞きたいのか。

(事務局) 原案は高校生も紙でのアンケート調査としていたが、画一的な調査なので本心を深く聞いた方がいいのではないかと、次期親になる世代なので高校生の若い意見も事業計画に反映したいという流れから、グループヒアリングを実施することとなった経緯がある。

(会長) 現状のいいところ、こうなってほしいというところ、そして10年後住みたい古賀市になるためにどんなことが考えられるか、を聞いたほうがいいのではないかと。

(委員) あなたは将来古賀市に住みたいか、という問いもあれば、古賀市在住でなくてもよいかかもしれない。

(事務局) 古賀市在住者に限定してしまうリスクとして、一緒に参加したいと思っている友人が古賀市在住でないために参加できない状況も考えられる。

(委員) 自分が高校生の時にこういうことできたか。知らない子同志が集まって意見がうまく出るか。高校の先生に頼まないと難しいのではないかと。

(会長) 古賀市在住でない子は自分のまちでない古賀市を語れるとは思えない。古賀市在住の子に語ってもらうことにこそ意味があると思う。毎年やっている行事であれば違うが、今回初めてであれば高校の先生の後押しは必要だろう。

(委員) 自分が思っていたヒアリングのイメージと違った。親になる力、高校生の目から見てどういう子育て支援が必要か、を探るものかと思っていた。

(委員) 中学生と小学生の自由発想の作文では、地域活動に参加して自分の考えをきちんと書いている子が複数いる。こういう場に参加する高校生であれば自分の考えを語れる高校生はいると思う。

(委員) 今の中学校現場で、こういった場で話ができる生徒はごくわずかだろう。学校教育では郷土愛は教える。古賀の子育て支援策がどうなったらいいかまで考えが行きつかないのでは。学校では発表の場はあるが、ディスカッションはしない。「10年後の古賀市」の問いがあったが、自分たちが今「10年前の古賀市と今の古賀市で変わった点」を聞かれても出てこない。本ヒアリングの目的はなにか、普通のアンケートできけないからヒアリングを選んだのか、高校生に未来を描かせたいから実施するのか、きちんと確認した上でやっていただきたい。

(事務局) 実際、コミュニティ推進課ではサマーミーティング、オータムミーティングで高校生参加で実施した実績がある。そういった活動とも今後つながっていければと思っている。

(委員) タウンミーティングとは目的が違うのでは、と思う。

(事務局) 前回のニーズ調査では高校生は対象にしていない。子育て支援と聞くと基本が就学前や小中学生への支援が主で、行政の方でも子育て施策がある。高校生になると行政と途切れ、支援策として市が関わる場所がなくなってくる。今回は国の方針として調査対象も決められてい

たが、今回は自由度が増し、児童生徒は18歳ということもあり高校生のニーズを聞いて事業計画に反映していこうとなった。アンケートよりも、ヒアリングの中で高校生の“想い”を今後の施策と結び付けられたらと考えている。

(委員) 未来のざっくりしたイメージは出てくるかもしれないが、具体的なことは出てこないのではないか。

(委員) 高校生がどれぐらい子どものことを知っているか。どれぐらい小さい子と関わったことがあるのか。赤ちゃんを抱っこした経験があるのか、という現状を知りたいと思う。

(委員) 地域の中では小中学生とは関わりがあるが、高校生になるとどこに高校生や大学生がいるのかわからない。このように高校生を集めて、一度考えてみようか、という場を設けることが大事なのではないか。学校の中では生徒としてそれなりの話し方かもしれないが、地域の中では違う子もいる。難しいことを聞こうとするから難しく聞こえるが、テーマを与えて話をすることに意義があるのではないか。

(委員) タウンミーティングであればそれでもいいと思うが、ここでやろうとしているのが事業計画のニーズ調査のヒアリングなので、趣旨が異なるのではないか。

(事務局) 高校生が参加して自分の意見を言うことが大事なのではないか、まちづくりと計画は違うという意見もいただくが、大きくは子育て支援事業計画もまちづくり計画の一角であるし、自分たちの想いを表現すること自体が子育て支援事業の大きな事業の一つではないかと思っている。ヒアリング手法としては色々あるが、高校生の想いを聴き、高校生に想いを語ってもらうという点が重要ではないかと考えている。

(委員) これから少しずつでもこういったことをやっていけばいいと思うが、今回はざっくりと意見を聞いて、子育て支援計画につなげていけるところをピックアップすればいいのではないかと理解をした。

(会長) コーディネーターが重要。設問を3つ4つぐらい考えたほうがよい。たとえば、“高校生としての子ども”がどんなことを考えているかを聞き出す。「どんな古賀市だったらいいと思うか」「これからどんなことをしていけば古賀市の子どもたちにとってもっと住みよいまちになるか」など。答えたものに対してどんどん広げていけばよい。ぜひ委員の方にもご協力をお願いしたい。

(事務局) こういう質問がいいのではないかと、と案があれば遠慮なくお知らせいただきたい。

6. その他

○ニーズ調査の実施スケジュールについて、10月中旬から下旬にかけてアンケート調査を実施する予定。その際には小中学校、幼稚園・保育園の先生方にもご協力をお願いしたい。その後11月から1月にかけてアンケート結果の集約分析を行い、2月の子ども・子育て会議でニーズ調査の結果（速報版）を報告する。2月会議には業者にも入っていただく。

○次回（第4回）会議は、保育園等の定数に関わる協議について、ご審議いただきたい。

○29年度の事業評価への質問について、9月28日（金）までに質問票の提出期限を延長しているため、提出をお願いしたい。

○次回会議日程については11月を予定しており、後日FAXにて通知する旨、説明する。